

世界に羽ばたけ市之川の輝安鉱(Stibnite Crystals)シンポジウム ～ケンブリッジ大学のサー・コリン・ハンフリーズ教授を迎えて～ シンポジウム実施報告概要

1 概要 ケンブリッジ大学のコリン・ハンフリーズ教授を助言者にお迎えし、結晶の大きさと美しさで世界一とされている市之川の輝安鉱をテーマにシンポジウムを開催するとともに、市之川鉱山の価値について啓発を行う。

2 目的

- (1) 地元の認識が薄い市之川鉱山輝安鉱に再びスポットを当てることにより、世界に誇れるものであることを発信する。
- (2) 学生が中心となって事前に調査・研究を行うことで、若い世代に市之川鉱山の輝安鉱の価値を認識させ、地域を誇りに思い地域に貢献できるシビックプライドの醸成を図る。
- (3) 世界的な科学者に参加していただくことで、輝安鉱(アンチモン)の金属材料としての可能性を探り拓げる
- (4) 研究者、行政、市民、管理会社が一体となって、世界の宝としての市之川鉱山の保全と啓発の在り方を考え、組織としての実践の糸口を探る。

3 開催日 平成26年8月21日(木)

4 場所 JA西条 はなゆい

5 シンポジウム出演者

(1) 基調講演

西条市市之川地区公民館長 渡邊博毅氏 「市之川鉱山の輝安鉱について」

埼玉医科大学准教授 田邊一郎氏 「世界に冠たる市之川鉱山 その歴史と価値」

(2) 研究発表

世界一の輝安鉱研究チーム(愛媛県立西条高等学校物理部)

(3) パネルディスカッション

来賓者

イギリス・ケンブリッジ大学 サー・コリン・ハンフリーズ教授

独立行政法人物質・材料研究機構特命研究員 原田広史工学博士

コーディネーター

愛媛県総合科学博物館学芸課長 千葉昇氏

パネラー

西条市市之川地区公民館長 渡邊博毅氏

埼玉医科大学 田邊一郎准教授

西条市立多賀小学校校長 藤本充氏

新居浜南高等学校コネスコ部員

西条高等学校物理部員

新居浜南高等学校コネスコ部顧問 河野義知氏

西条高等学校物理部顧問 園部孝行氏

一般参加者 約200名

6 主催 西条市、西条市教育委員会、西条高等学校

イラスト; 宮宇地梨奈(西条高校生)

8 シンポジウム「パネルディスカッション」

2013年からイギリススタディツアーを実施している西条高校では、道前会（同窓会）の物質・材料研究機構の原田広史工学博士と、イギリス材料学会会長を歴任したケンブリッジ大学のコリン・ハンフリーズ教授とのつながりによって交流をしていることから、ハンフリーズ先生を西条にお迎えすることになった。そのため、教授が材料学の権威ということもあり、地域の資源を紹介しようと、西条高校物理部1年生が、市之川鉱山の調査を始めた。部員は6月から渡邊館長の説明や指導を受けながら、鉱山跡地の視察を何度も行い、輝安鉱を見つけるなどした。8月21日午前中は、部員2名が、コンクリートでふさがれている千荷坑（せんがこう）と公民館内に展示されている鉱山資料を英語で案内した。



（手前テーブル右）コリン・ハンフリーズ教授
（マイク話し手）原田広史工学博士



西条市民や県外の専門家など200名を超える一般参加者が集まった。パネルディスカッションでは、鉱山跡地の今後の活用について「アンチモンではなく結晶を採るために再び採掘しては。」など、活発な意見が飛び交った。登壇したハンフリーズ教授は「世界で有名な市之川を見学できてうれしい。」と述べ、「鉱山を活用することで、ぜひ未来を切り拓いてもらいたい。」と望んだ。

西条高校物理部は、今後、元坑内員に話を聞くなどして科学的な観点からも研究を進める予定。部員からは「市之川鉱山を通して西条を世界の結晶鉱物学の研究拠点にし、世界遺産に登録できれば。」との夢も語った。

コーディネーター（左1人目）
愛媛県総合科学博物館学芸課長 千葉昇氏

パネラー

- 市之川地区公民館長 渡邊博毅氏（左2人目）
- 埼玉医科大学 田邊一郎准教授（左3人目）
- 西条高校物理部顧問 園部孝行氏（左4人目）
- 西条高等学校物理部員（右4人目）
- 新居浜南高校ユネスコ部員（右3人目）
- 新居浜南高校ユネスコ部顧問 河野義知氏（右2人目）
- 多賀小学校校長 藤本充氏（右1人目）

